

今月号は、平成30年度の活動報告をさせていただきます



医療・介護関係者の方々から、ご相談をお受けしました。相談内容の一部をご紹介します。



Q:重症神経難病の患者様が人工呼吸器装着後に在宅療養を継続するにあたり、在宅主治医を探してほしい。

A:今後の病状進行もふまえ、医療的管理が可能である在宅主治医について、保健所等と相談。医療機関に受け入れ可能か問い合わせを行い、相談者に提案した。

Q:介護施設内において、介護職員等による医療的ケア研修を行うため準備を進めている。医師の指示書、研修計画書等の書き方について教えてほしい。

A:医師会で実際に行っている研修の指示書、研修計画書等の書類の一部から個人情報削除したものを記載例として紹介した。

Q:末期がんの利用者が退院して在宅療養するにあたり、何もサービスが導入されておらず、ADL低下、苦痛が出現してから連絡が入った。夫との二人暮らしであり、早期に介入できていれば、本人の苦痛や夫の疲労に対する支援も可能だったと思われる。退院時における医療・介護関係者間の連携には差がみられる。

A:島根県入退院支援連携ガイドライン（案）について、検討委員会にて検討中。今後、運用可能となれば、支援内容の統一化や迅速な情報共有に活用できると考える。必要時、安来市版の作成についても関係者と協議していく。

医療・介護関係者の方からのご相談をお受けしております。お気軽にお電話ください。



在宅医療介護連携意見交換会



3月1日には、第2回在宅医療介護連携意見交換会をやすぎの郷ふれあいホールにて行いました。今回は、『地域における訪問リハビリテーションの役割』と題して、安来第一病院 訪問リハビリテーション言語聴覚士 小笹太志様と介護老人保健施設コスモス苑 訪問リハビリテーション 理学療法士 松本豊様にご講演いただきました。医療・介護関係者約60名の方にご参加いただきました。



今年度の活動 あれこれ

在宅医療公開セミナー



4月15日には、在宅医療公開セミナーを開催しました。第一部は、ドキュメンタリー映画上映、第二部は市内各病院の院長様によるパネルディスカッションを行いました。当日は、関係者や一般市民の皆様、総勢235名にご参加いただきました。



安来市地域連携室連絡会

6月、10月、2月に市内各病院の地域連携室の皆様と、連絡会を行いました。今年度は、米子市内の地域連携室の皆様をお招きして意見交換を行いました。出席者からは、実際に会って話すことで相談がしやすくなった等の感想をいただきました。



広報誌配布



今年度から、広報誌を始めました。市内医療・介護関係事業所や市外の一部医療機関にも配布しています。



退院支援におけるアンケート調査

【ご自身についてあてはまるものを□、または○で記入ください】

年齢	20代	30代	40代	50代	60代以上	性別	男性	女性			
職種	①医師	②看護師・看護士	③ケアマネジャー	④理学療法士	⑤作業療法士	⑥言語聴覚士	⑦薬剤師	⑧管理栄養士・栄養士	⑨介護福祉士・介護士	⑩社会福祉士	
所属	⑪保健師	⑫助産師	⑬その他()								
所属の経験年数	1年未満	1~5年未満	5~10年未満	10年以上							
勤務先	①病院	②診療所	③通所介護事業所	④訪問介護事業所	⑤訪問看護ステーション	⑥在宅介護支援事業所	⑦老人保健施設・老人福祉施設	⑧地域包括支援センター	⑨その他()		

退院支援における在宅医療・介護連携に関するアンケート調査のお願い
日頃より当センターの活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。当センターは、地域包括ケアシステム構築の一環を担う、在宅医療・介護連携の推進を図ってまいります。今回、「退院支援」における多職種間連携の状況及び課題等をお話し、多職種間連携に関する研修会等の企画にあたって、情報収集のためのアンケート調査を実施することといたしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。
2018年8月
安来市在宅医療支援センター

8月には、市内の医療機関・介護事業所を対象にアンケート調査を実施しました。総勢430名の方々からご回答を頂くことができました。今後はこの結果をもとに多職種間連携に関する研修会等を企画していきたいと考えています。

研修会企画・開催



10月には、在宅看取り勉強会として、『ホームクリニック暖(だん)』の院長 奥野 誠先生を講師にお迎えしてご講演いただきました。当日は、医療・介護関係者、行政等、約70名の方々にご参加いただきました。